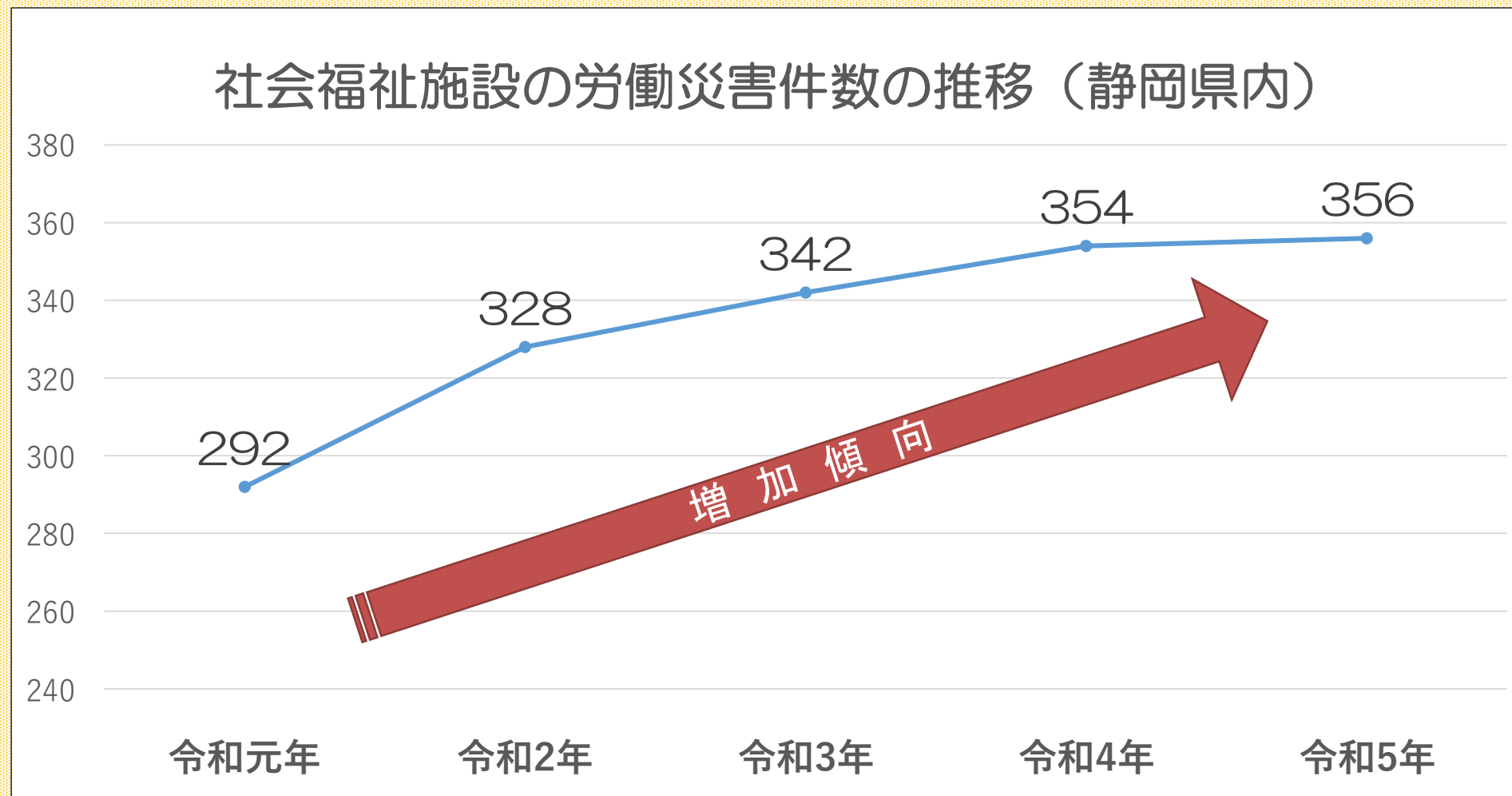


社会福祉施設の 労働災害防止について



静岡労働局 労働基準部 健康安全課

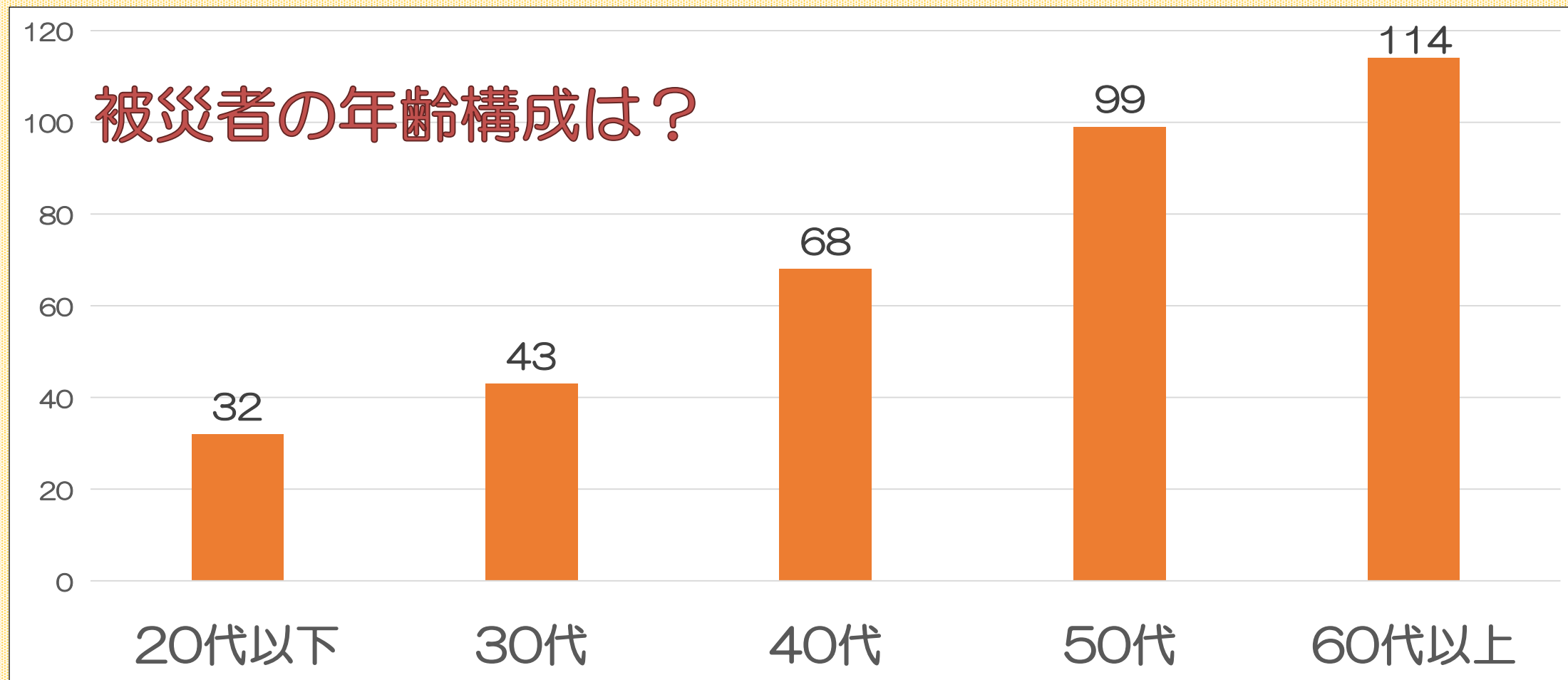
労働災害が急増しています



出典元：労働者死傷病報告

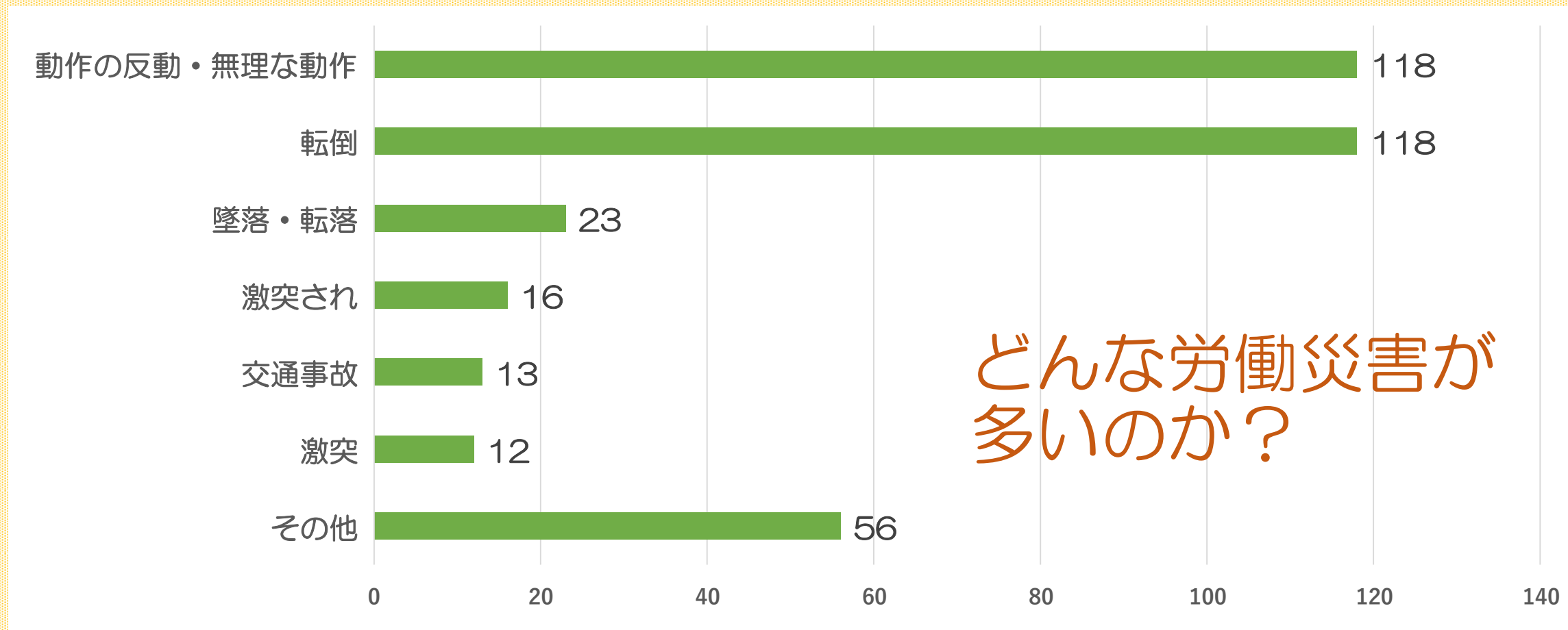
※新型コロナウイルス感染症を除いた休業4日以上の件数

社会福祉施設労働災害発生件数（令和5年）



年代が上がるほど労働災害が増加する

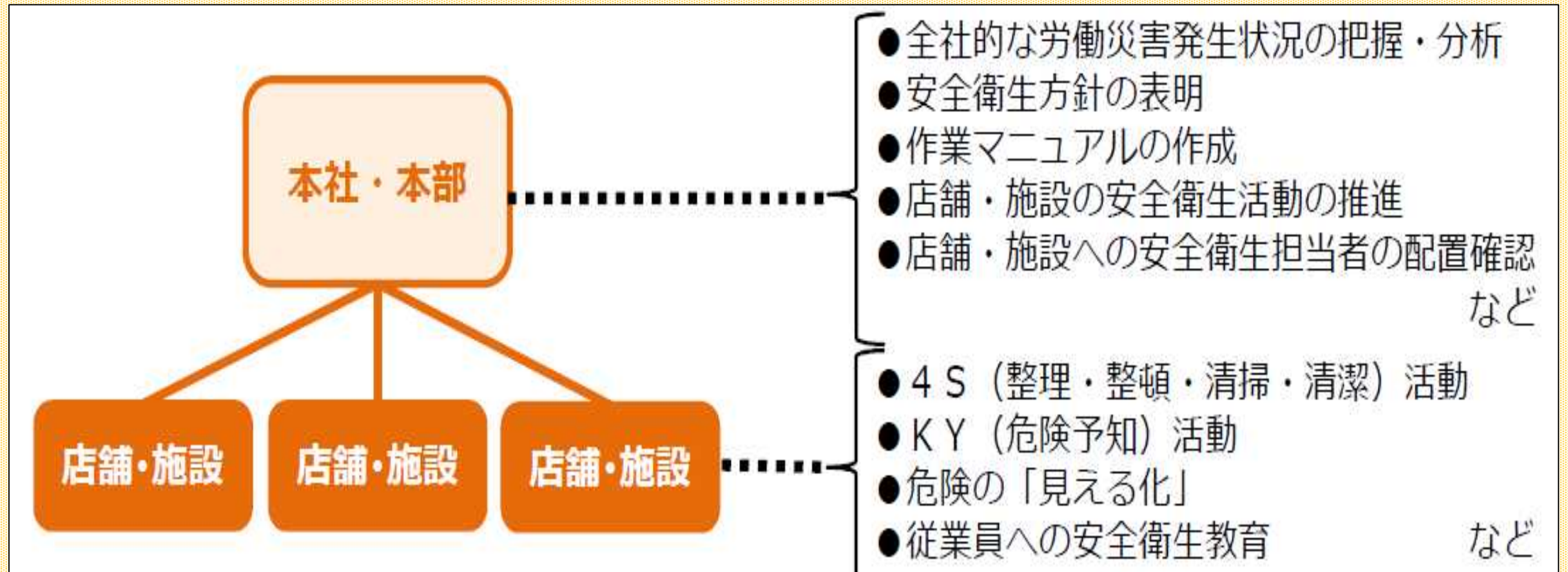
事故の型別労働災害発生件数（令和5年）



どんな労働災害が多いのか？

動作の反動等（腰痛や捻挫など）、転倒が圧倒的に多い

労働災害を防止するための取り組みとは？



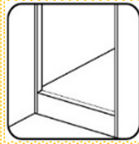
転倒災害を防止しましょう

① 「つまづき」による転倒災害の原因と対策

(なし)

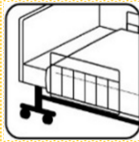
何もないところでつまずいて転倒、足がもつれて転倒

- ☞ 転倒や怪我をしにくい身体づくりのための運動プログラム等の導入
- ☞ 走らせない、急がせない仕組みづくり



通路の段差につまずいて転倒

- ☞ 事業場内の通路の段差の解消、「見える化」
- ☞ 送迎先・訪問先での段差等による転倒防止の注意喚起



設備、家具などに足を引っかけて転倒

- ☞ 設備、家具等の角の「見える化」



利用者の車椅子、シルバーカー、杖などにつまずいて転倒

- ☞ 介助の周辺動作のときも焦らせない
- ☞ 介助のあとは“一呼吸置いて”から別の作業へ



作業場や通路以外の障害物（車止めなど）につまずいて転倒

- ☞ 適切な通路の設定
- ☞ 敷地内駐車場の車止めの「見える化」



コードなどにつまずいて転倒

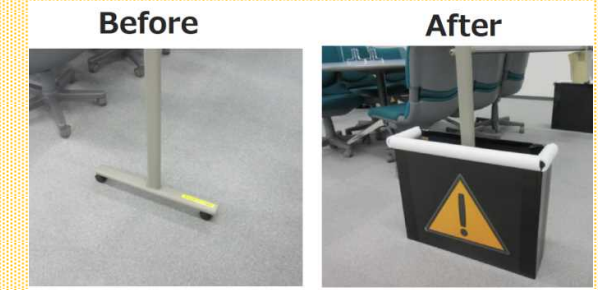
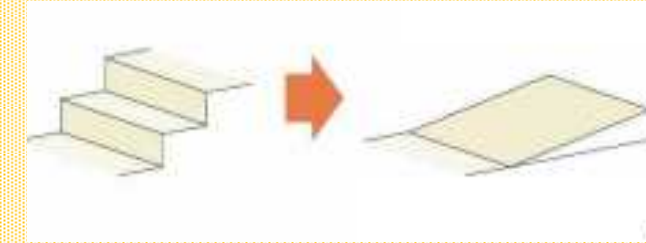
- ☞ 労働者や利用者の転倒原因とならないよう、電気コード等の引き回しのルールを設定し、労働者に徹底させる



職場3分
エクササイズ



中央労働災害
防止協会
転倒予防セミナー



転倒災害を防止しましょう

②「滑り」による転倒災害の原因と対策



凍結した通路等で滑って転倒

☞ 従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マットを設置する



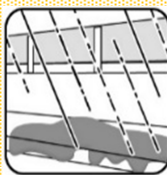
浴室等の水場で滑って転倒

- ☞ 防滑床材の導入、摩耗している場合は施工し直す
- ☞ 滑りにくい履き物を使用させる
- ☞ 脱衣所等隣接エリアまで濡れないよう処置



こぼれていた水、洗剤、油等（人為的なもの）により滑って転倒

☞ 水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。
（清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してからの開放）



雨で濡れた通路等で滑って転倒

- ☞ 雨天時に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う
- ☞ 送迎・訪問先での濡れた場所での転倒防止の注意喚起

※高年齢労働者の労働災害防止のために設備改善等を行う場合、中小企業事業者は「エイジフレンドリー補助金」の対象となります。

エイジフレンドリー補助金
についてはこちら



静岡労働局では「ぬかづけ運動」を実施しています

このリーフレットは、静岡労働局HPからダウンロードできます。

「静岡労働局 ぬかづけ運動」で検索！

職場の安全対策を！ 静岡労働局 転倒災害を防ぎましょう

「静岡労働局 ぬかづけ運動」実施中！

転倒災害を防止しよう！



ぬれた場所



かいたん



かたづけ



毎日の運動

床の水たまりや水、油、粉類など危険な状態をみつけ、対策を講じていますか？

階段や段差のある場所など、転倒リスクの高い箇所に対して対策を講じていますか？

身の回りの整理整頓など、日々、作業者への意識づけ、教育などを行っていますか？

ストレッチや転倒予防体操など運動を行って、転倒しにくい体づくりに努めましょう！

静岡県内における労働災害（令和5年 4,576件）



転倒
全体の**26%**



静岡県内では、平成21(2009)年から連続し、転倒災害が「事故の型」ワーストワンとなっています。転倒災害を少しでも減らすため「静岡労働局ぬかづけ運動」を展開しています。

静岡県内における令和5年の転倒災害「111件の内訳」

女性約6割



性別

8割以上が40代以上



女性の年代別

約6割が休業1ヶ月以上



女性の休業期間別

転倒災害の約6割が女性で、内8割以上が40代以上であり、約6割が休業1ヶ月以上となっています。

Column エコール10mgを12ヶ月摂取すると骨密度の減少率を抑えられたというデータがあります。女性ホルモンに似た働きをする注目成分「エコール」とは、エコールとは、大豆イソフラボン的一种であるダイゼインが腸内細菌によって代謝され生まれる成分です。このエコールこそが、エストロゲンと似た働きをすることがわかっています。ただしエコールを作れる人の割合は、日本人で約5割といわれています。若い年代の人では20~30%の人しか作れません。エコールを作れる人でも、大豆食品の摂取を心がけ、体内にエコールがある状態を保てるようにサプリメントなどから摂取することをオススメします。

若年層にせしかかると骨量は急激に減少



エコールが骨密度の減少を42%抑制



Otsuka

10月10日は『転倒予防』の日

○中央労働災害防止協会「STOP! 転倒災害プロジェクト」
<https://www.jeha.or.jp/campaign/tenjitu/index.html>

○一般社団法人 日本転倒予防学会 <http://www.tenju.academy.jp/>

転倒リスクの高い場所をわかりやすく「ぬかづけ」と認知したのは「日本転倒予防学会」の研究成果に基づいています。

静岡労働局 労働基準部 健康安全課
静岡市駿河区湯子町9-50 静岡地方合同庁舎3階 TEL 054-254-6314 [R6.05]

静岡労働局と大塚製薬は包括連携協定を締結し、働く者の健康増進を推進しています。

動作の反動・無理な動作（腰痛）による災害を防止しましょう

この事例集は、厚生労働省HPからダウンロードできます。

URL
<https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/001103533.pdf>



腰痛を防ぐ 職場の事例集

厚生労働省 中央労働災害防止協会

介護事例16 臥位のまま移乗できるスライディングボードを使用

費用の目安 数千円

社会福祉法人緑峰会 特別養護老人ホーム グリーンライフ
施設の種別：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人


成果
腰への負担が軽減

内容


- ・利用者を機械浴用のストレッチャーからストレッチャーに移乗するときに、身長程度の長さがあり、臥位のまま移乗できるスライディングボードを導入した。
- ・このスライディングボードを導入した結果、移乗のときに利用者を抱え上げなくなった。
- ・導入後は、「このスライディングボードなしでの介護はあり得ない」という声がかれるほど移乗介助が楽に行えるようになった。また、移乗のときに利用者の皮膚の擦傷がなくなった。

きっかけ

- ・皮膚が弱い利用者が、機械浴用のストレッチャーからストレッチャーに移乗するときに擦傷したことがあった。



臥位のまま移乗できるスライディングボード



移乗のときに利用者を抱え上げなくなった

介護事例17 スライディンググローブを使用

費用の目安 数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知
施設の種別：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果
腰への負担が軽減

内容

- ・ケアに携わる全職員に、外側が身体の下に差し込みやすい低摩擦素材、内側が作業しやすいよう滑りにくい素材でできた体位変換用のグローブを購入し、各職員に配布した。
- ・体位変換用のグローブを常に携帯できるようウエストポーチを配布し、着用させるようにした。
- ・利用者の座位姿勢の修正や体位変換で、体位変換用のグローブの使用が定着した。

きっかけ

- ・体位変換用のグローブの使用方法は知っていたが、各職員がすぐに使える状態ではなく、ステーションの棚に置いたままになっていた。



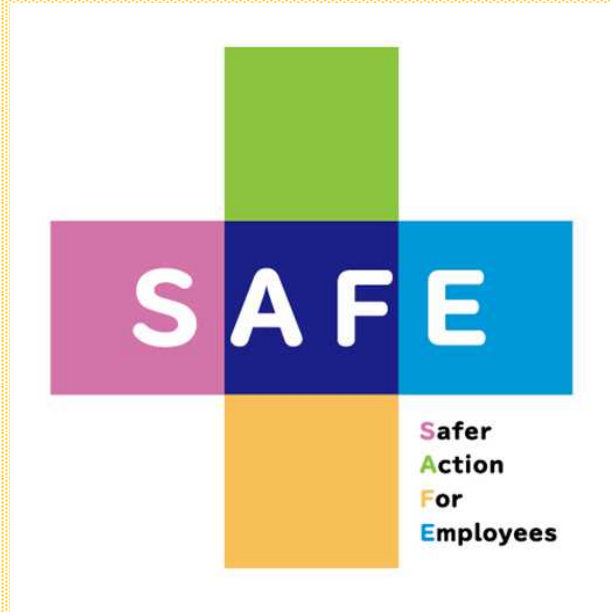
グローブ携帯用のウエストポーチ

静岡労働局における施策について

◎静岡県介護施設SAFE協議会の設置

近年、社会福祉施設において、労働災害が増加傾向にあり、その状況に歯止めをかけるべく、令和4年度より、県内の介護施設を運営する法人や、静岡県をはじめとした地方公共団体等を構成員としたSAFE協議会を設置し、協議を行い、周知・啓発資料の作成等の活動を進めています。

※「SAFE」とはSafer Action For Employees（従業員の幸せのための安全アクションを推進する活動体の名称です）。



令和5年度に開催した協議会の様子



★静岡県介護施設SAFE協議会の活動等については、こちら



https://jsite.mhlw.go.jp/shizuoka-roudoukyoku/newpage_00408.html



まとめ

- 社会福祉施設では、労働災害が急増しています。
本部においては運営施設の労働災害の状況把握をお願いします。
- 施設においては、特に腰痛や転倒など作業行動に起因する労働災害防止の取り組みを実践しましょう。
- 利用者に安全・安心・快適な環境を提供するためには、施設で働く方の安全や健康を保つことが大切です。